

第2回境港市みんなでまちづくり推進会議録

日時：令和元年5月9日(木) 18:30～22:00

場所：市役所第一会議室

日程

1. 開 会
2. 境港市民活動推進補助金審査
3. 今期取組テーマについての協議
4. 閉 会

出席者（敬称略）

（委員）

渡部敏樹 遠藤恵子 松本幸永 徳尾勝 松田真二 渡邊冬樹
門脇京子 足立勲 岩本和貴

（事務局）

沼倉加奈子（地域振興課長） 木村哲（地域振興課企画係長）
渡部大樹（地域振興課企画係主任）

（傍聴者）

なし

欠席者（敬称略）

松本信子 遠藤緑 糸川諒

<開会>

（会長）

皆さん、こんばんは。お疲れのところ、お集まりいただき、ありがとうございます。
これより令和元年第2回目のみんなでまちづくり推進会議を開催いたします。

本日は、ご案内させていただいたように、先に市民活動推進補助金の審査をして、その後、午後8時15分ごろより、今期の取組テーマ「U・Iターンしたくなるまちづくり」について協議したいと思います。なお、本日は、松本信子委員・遠藤緑委員・糸川委員が欠席で、岩本委員は申請団体につき、補助金審査後から参加される予定です。

さて、今回は時間があまりありませんので、早速ですが、市民活動推進補助金の審査に移りたいと思います。事務局より説明をお願いします。

（事務局）

本年、2回目の募集をしましてところ、一般事業に3団体の申請がありました。審査員の皆様には、事前に書類審査をしていただいております、お忙しい中、ありがとうございました。

事前審査による申請団体の評価点は、お手元の資料のとおりとなりましたので、ご確認ください。審査表の審査基準を基に、申請書のみでの審査をしていただきましたので、この後行われるプレゼン後に得点修正があればそこで修正していただき、審議をしていただきます。

それでは、本日の審査会の進め方について説明いたします。

ヒアリング審査員3名と地域振興課長の計4名でヒアリング審査を行います。ヒアリング審査員3名については、あらかじめ事務局の方で、決めさせていただきました委員の方をお願いしたいと思っておりますが、よろしいでしょうか。

※委員異議なし

続きまして、ヒアリング審査の仕方を説明いたします。

最初の3分間で申請団体から申請概要説明をしていただきます。その後、残りの17分間でヒアリング審査員の方に質疑をしていただきます。質疑にあたっては、委員の皆さまでどのような質問をするか、また誰がどの質問をするかという打ち合わせをする時間を設けたいと思います。ですので、質疑にあたっては、ご自身で考えられた質問のみならず、お手元の「審査表集計結果」にあります皆さまの意見を委員の代表として述べていただくようお願いいたします。なお、質疑の間、ヒアリング審査員以外の方には、傍聴をしていただきますようお願いいたします。

プレゼン終了後に皆様で審議していただきます。そこで、事前にご記入いただいた審査表の得点とプレゼンを参考にしながら採択・不採択の決定を行っていただきます。各事業とも30点満点で、6割の18点が採択の基準点となっております。

以上で説明は終わりますが、何かご質問等ございますでしょうか。無いようでしたら、審査内容の打ち合わせを行いたいと思います。

※委員質問なし

<打ち合わせ>

- ①ヒアリング審査員のうち、誰がどの質問をするか振り分け
- ②質問の意図を確認

<申請団体によるプレゼンテーションの開始>

◇1団体目 平和のための戦争展境港実行委員会

・申請事業 第6回平和のための戦争展

・事業内容 中国大陸での戦争拡大の中で、私たちの郷土ではどのような関わりがあったの

かを新県史編纂委員の講演を聞いて考えてみる。

(委員)

戦争を知らない世代の方の来場者数と割合、それと、戦争を知らない世代にどのように伝えていきますか。

(平和のための戦争展境港実行委員会)

来場者の年齢を受付での記載項目に入れていません。個人情報のあるので、書いていただけないことも多いです。74年経っておりますので戦争を知らない世代というのは60代後半以下ということになりますが、あまり若い人は見ていません。

(委員)

若い人との対話の方法として、学校での講演等は考えていますか。

(平和のための戦争展境港実行委員会)

学校に行って、誰かが戦争展の話をするということですか。今までそのアイデアは出ていませんね。小学校・中学校にはチラシを配らせてもらっています。学校に行って話をさせてもらえるなら、したいと思います。

(委員)

開催は秋ということですが、終戦は8月ですよ。11月である理由というのはありますか。

(平和のための戦争展境港実行委員会)

使える会場がしおさい会館になるのですが、連続して借りられるという点と費用の点を考えると、ここしか取れないというのがあります。前後を借りないといけけないので。

(委員)

4、5人の語り部の方がおられるということですが、どういった体験をされた方ですか。

(平和のための戦争展境港実行委員会)

目標が4、5人であって、まだ確保はできていませんが、1人は玉栄丸の関係、あるいは、直接戦争に行かれた方など、特にこれでない、というのはありませんが、なるべく分散するような恰好で考えております。

(委員)

ポスターやチラシにどういう方が出るかというところまで書かれますか。

(平和のための戦争展境港実行委員会)

そこまでは、おそらく間に合わないと思います。

昨年に関しては、語り部の皆さんのお話を文集として編さんしております。

(委員)

800名の会員の方はどのような年齢構成でしょうか。また、この会員の方々は日ごろ、どのような活動をされておられるのでしょうか。それから、どのようなきっかけでこの会が発足されたのでしょうか。

それから、これまでの質問に重複するところもありますが、今後、この活動を継続・発展させていくためには、やはり若い世代を対象にした講演会が必要になるかと思います。昨年は特に考えていないということでしたが、いかがでしょうか。

(平和のための戦争展境港実行委員会)

構成員の800名というのは、「平和で暮らしよい境港をつくる会」「米子医療生活協同組合境港支部」「年金者組合境港支部」「新日本婦人の会境港支部」「境港九条の会」が主だった団体で、あとは個人です。実際には重複している人もいるので、実数はもう少し少ないです。

で、構成員は800名いるのに、実際には200名くらいしか集まっていないというのは、前回は指摘を受けたかと思いますが、それぞれの団体に関心がある人もいればいない人もいるというところで、内部的にちゃんとアナウンスをしないといけないと思います。

(委員)

市外の方もいるのでしょうか。

(平和のための戦争展境港実行委員会)

全部、市内の方です。

発足のきっかけとしては、戦争というものを知らない世代がおりますので、平和について考えてもらおうと5年前に始めたものです。

今後の発展というところでは、昨年も指摘を受けたところですが、我々も頭を痛めておりまして、色んな方面で宣伝しているのですが、現状、来ていただけていません。どうやってアナウンスしていけばいいのか、工夫しながらやっていきたいと思っています。

(地域振興課長)

実行委員会の会員の800名というのは、構成されている団体の合計数であると把握しました。これは団体には入っているけれど、戦争展の実行委員としての活動をしているわけではないということですね。

(平和のための戦争展境港実行委員会)

各団体から何人か出し合って実行委員会を組織している形です。

(地域振興課長)

若い世代の参加というところでは、日本の戦争は実体験のない世代がほとんどですが、世界を見ると、今も戦争が起きており、若い女の子が平和に対する活動をしていたりということもあるので、世代のターゲットを絞れば、別の形の展開もできるのかと思いますが、日本の戦争というところがあくまで主題になるわけですか。

(平和のための戦争展境港実行委員会)

仰る通り、世界に目を向ければ、さらに視野の広がった活動もできるかもしれませんが、活動のきっかけが「境港でやる」というところですので、各地で戦争展がされる中で、境港独自の戦争展をするというのが現状の形です。ただ、そのような意見があったことは実行委員会の中でも伝えようと思います。

～ 1 団体目終了～

◇ 2 団体目 境港サーフレスキューチーム

- ・ 申請事業 市内の水辺における安全活動
- ・ 事業内容 監視・救助活動及び海岸の清掃活動や、「浮いて待て」教室の実施により、防災・自助意識の向上を促す。

(委員)

5名で立ち上げられて、いま10名になったということですが、その内、ライフセーバーの資格を持っておられる方は何人ですか。

(境港サーフレスキューチーム)

3名ですが、今後も増やしていきたいと思っています。

(委員)

10名になったということですが、どうやって増やしていかれたのでしょうか。

(境港サーフレスキューチーム)

私は海上保安庁のOBですし、メンバーには消防士もいるので、昔からの付き合いもありまして、声をかけて集めました。

(委員)

水難学会も10名とありますが、これらの方には謝礼金というのはないのですか。

(境港サーフレスキューチーム)

これまでも山陰で「浮いて待て」の活動はやっておりまして、すべてボランティアでした。今回は、ガソリン代だけでも出せたらと考えております。

(委員)

美保湾展望台については、遊泳禁止になっていると思いますが。

(境港サーフレスキューチーム)

海上保安庁に確認しますと、キャンプ場の前の勝手に浜については、マリーナから出航する船があるため、完全な遊泳禁止だということですが、他のところについても遊泳禁止とはなっていますが、実際、泳ぎに来る方がいらっしゃる。そこを、通学路に監視員が立つのと同じで安全管理ができればと思っております。現在は、遊泳禁止というか、「ここは海水浴場ではありません」という看板があります。

(委員)

私は珥春市との交流というのにまったく意識がなく、初めて知りましたが、私のような意識がない人に向けてどのようにPRしていきますか。

(境港サーフレスキューチーム)

私たちもその点は課題だと感じているところです。情報提供は市報やマスコミを使って広く行うのですが、興味のない方にどのように伝えていくかは、今後、実行委員会の中でよく話し合いたいと思います。

(委員)

予算に、ボードなどの備品で約25万円が計上されております。これは購入でなく、レンタルという形にはできないものでしょうか。というのも、初めての活動でしょうから、まずは、レンタルではどうかと思ひまして。

(境港サーフレスキューチーム)

実は、この活動は昨年、人数が少ない中で試行的にやっております。その際は、岩美町からレスキューボードをお借りして、活動しました。何分、どこのクラブも機材が限られており、度々借りるといのは難しいです。このボードは耐久性に優れており、長年使用が可能かと考えております。

(委員)

どこでどう管理されますか。

(境港サーフレスキューチーム)

一番管理が大変なのがボードですが、車に積める大きさですので、車で運搬し、メンバーの自宅で保管したいと考えています。

(委員)

救助艇の燃料費の内訳が不明ですが、どういう形でしょうか。

(境港サーフレスキューチーム)

救助艇の燃料費を7万円計上しておりますが、セーリング連盟からボートを貸していただけるということになっておりまして、10日間の活動で、1日50リットル使うとして、ガソリンなので単価が140円、1日7千円かかるということで、10日間で7万円としております。

また、活動旅費。こちらは活動するメンバーがこの場所に来るガソリン代として、監視活動については1日平均5名来る計算で一人千円払いまして、5万円。それから、学校での「浮いて待て」活動ですが、学校は4校の想定で1日5名参加するとして、一人千円で2万円。これ以外に、シーズン前に訓練をしたいと考えておりまして、出雲のチームと合同訓練ができたかと考えております。乗り合いで1万3千円を計上しておりまして、合計で8万3千円という算出をしております。

(委員)

美保湾展望台で監視するということでしたが、現時点では、海水浴場になっていないので、監視をすることで、泳いでよいということになりはしませんか。まずは、注意喚起をすることも大事なのかなという気がします。

それから、ライフセーバーの方がいるとのことでしたが、事故が起きてしまった時の責任というのはどう取る考えでしょうか。

(境港サーフレスキューチーム)

遊泳禁止エリアでの監視については、海上保安庁との話し合いでも意見が出まして、結論としては、「現状、危ない状態だから、活動する」という考えでもらって構わないという見解でした。

(委員)

海水浴場の指定というのはどこがするのでしょうか。

(境港サーフレスキューチーム)

地元の組織で立ち上げるような形で、観光協会がしていたり、自治体がしていたりするようです。許可とかそういうものではないらしく、「鳥取県海水浴場整備促進要綱」というのがあり、その中で、水質が環境省の基準をクリアしているかだとか、シャワー設備や駐車スペースがあるかなどが目標として定められています。ただ、これもあくまで目標でして、クリアできないからといって、海水浴場として指定してはだめというわけでもないようです。

(委員)

活動を通じて、海水浴場の指定に繋がっていきたいということですか。

(境港サーフレスキューチーム)

そうです。境港はこれだけ海に囲まれていて、島根半島に行ったり、皆生に行ったりしているのはどうかなと思っていて、水質の問題はありますけど、活動を通じて、境港に海水浴場を作るというのは目標の一つです。

(委員)

小学校の「浮いて待て」教室というのはどこまで具体的な話ができているのでしょうか。

(境港サーフレスキューチーム)

どこの学校でというのは決まっていませんが、15年ほど前からボランティアでやっております、上道小学校ではすでに毎年やっております。また、第一中学校からもオファーはいただいているところです。また、西伯小学校など、西部地区でもオファーをいただいておりますし、今後は、市内全ての小学校でできるようにオファーを図っていきたいと思っております。

(委員)

各小学校でPRをしているということですか。

(境港サーフレスキューチーム)

やっておりますし、中には学校の先生が「浮いて待て」を教えている学校もあります。

(委員)

清掃活動というのは、どんな方がされるのでしょうか。「浮いて待て」教室に参加された児童などもされるのでしょうか。

(境港サーフレスキューチーム)

これは、監視を行う人間が、遊泳者が来る前に行います。児童などは参加しません。

(地域振興課長)

燃料費について確認させていただきました。救助艇の燃料費については、問題ありませんが、活動旅費については、この補助金における旅費というのが、講師や出演者といった会員以外の方に対しては出ますが、会員の方の活動や研修をするものに対しては対象経費とはなりませんので、あらかじめご了解いただきたいと思います。

それと、新規設立団体ですので、上限10万円にはなりますが、10分の10の枠もある中で、あえて、18万円の自己負担金を発生させるというのはどういった考えからでしょうか。10人の会員でやりくりするとなると負担は大きいですし、委員の質問にもあったように、あまり初めから無理はせずにといい考えもあるのかと思いますが。

(境港サーフレスキューチーム)

正直言いますと、機材費が非常にかかるというのがありますので、上限30万円のところで申請させていただいたところです。

(地域振興課長)

新規の立ち上げで自己負担18万円というのは本当に大きいことかと思いますが、そうすると、当然、継続していただくとして、しっかりした会則も作っておられますが、この中にある賛助会員や協賛会員というのを増やしていく今後の目標や計画というのはありますか。

(境港サーフレスキューチーム)

具体的な目標というのは挙げておりませんが、多くの法人を回って、できるだけ賛同いただきたいと思っております。既に、数件良い感触を受けているところもあります。この事業の必要性、子供の命を守るための活動ということを多くの方に伝えていきたいと考えています。

(地域振興課長)

自分たちのボランティア精神で行われる活動だと思いますので、自分たちばかりが持ち出しをするのでなくて、こういった賛助会員ですとか、他の補助金も活用しながら、組織を発展していただけたらと思います。

海上保安庁の担保を大分取っているようですし、あくまでも危険回避の活動ということを念頭に置いてもらって活動していただけたらと思います。

～2団体目終了～

◇3団体目 さかいみなと中野港漁村市実行委員会

- ・申請事業 漁村市交流人口拡大計画
- ・事業内容 沿岸の魚の魅力を周知し、境港の水産を盛り上げるとともに、高校生と協力し、将来の担い手育成を図っていく。

(委員)

米子市にも広告をされるということで、多くの方が来ることになるかと思いますが、魚が時化で獲れなかった場合や、中止になる場合、どのようにお知らせしますか。

(さかいみなと中野港漁村市実行委員会)

ブログやフェイスブックで知らせると、道路沿いの看板で表示します。

(委員)

なくなり次第終了なので、早く終わることもありますよね。行列もすごいですけど、行列に並んでいる間は他のものが買えないので、整理券を配るなどは考えていませんか。

(さかいみなと中野港漁村市実行委員会)

それをすると、収集がつかなくなってしまいます。魚が欲しい人は並んでもらって高い魚を買ってもらおう。10時半すぎで売れ残りが出てきますので、それを漁師と交渉してほしいと思います。それが漁村市の本来の姿です。並ばせていると、メディアの食いつきも良いです。ただ集客は年々減っております。

(会長)

集客は減っているとのことでしたが、チラシを多く出して、仮に集客が増えた場合、駐車場の確保や交通整理とかその辺は大丈夫でしょうか。また、一般ボランティアの参加はありますか。

(さかいみなと中野港漁村市実行委員会)

駐車場は海上の裏に管理組合が所有する大きな土地がありますので、いざとなればそこも使用しています。交通整理やスタッフに関しては、市や県や銀行の人たちとのLINEグループがありますので、そこで流して、毎回出てくれる方でやっています。ボランティアセンターに頼んだときもありました。でも、グループに29人いるので、そこから10人くらい出てくれたら、回るかなという感じです。それと、総合高校の生徒も課題研究で漁村市を取り扱っていますので、出られる人には出てもらっています。営利的な目的でなく、あくまで沿岸漁業振興であるので、警備員を雇う予算がありません。

(委員)

沿岸漁業で獲った魚は普段どうされていますか。市場ですか。結構、安く買われてしまう

んじゃないですか。

(さかいみなと中野港漁村市実行委員会)

そうです。それを防ぐために沿岸漁業振興ということで、付加価値を付けられるようにしています。エノハやオコゼは沿岸でないと獲れません。

(委員)

中海の魚にしても二束三文です。ほかのところもそうなので、最近は漁業者が道の駅なんかで直接売の動きが見られます。この漁村市がまさにそのように繋がっていくのだと思います。ぜひ、そこまでがんばってほしいと思います。

それから、サーモンを扱うこともあるかもしれないということですが、それにより利益が出た場合には、補助金額は減るので、そこはご了解いただきたいと思います。

(さかいみなと中野港漁村市実行委員会)

サーモンを200本売る予定にしています。1,000円で仕入れて、1,500円で販売して、差額の500円が利益になります。事業収入は100,000円増えるので、市の補助金は114,000円から64,000円になります。

(委員)

計算済みなんですね。

(さかいみなと中野港漁村市実行委員会)

サーモンは水温20度を超えると、揚げちゃうので、申請時はまだ微妙なところだったのですが、5月の頭に事業者を確認したら、出せるということでした。

(委員)

取り扱いはできることになったと。そうすると、補助金の額が下がりますね。

(さかいみなと中野港漁村市実行委員会)

変な話、サーモンで活動費を稼いで、不足分を市民活動推進課補助金と県の魚食普及の補助金で賄うという形です。

(委員)

自己資金の見方がよく分からないんですけど、繰越金がありますが、他の事業とかがあって、その分が残っているんですかね。

(さかいみなと中野港漁村市実行委員会)

過去に、地域振興賞でいただいたお金なんかがずっと繰越で残って、自己負担金として毎年使ってきている形です。

(委員)

沿岸漁業者にとっても、メリットとしては利益というよりも、沿岸漁業の普及というところでしょうかね。

(さかいみなと中野港漁村市実行委員会)

燃料代くらい出してあげたいですが。ただ、沿岸漁業者も全員が出ているわけではなく、小型底引きの一部です。「自分が出ない」という人もいますし、「関わるな」という人もいます。自分もケチョンケチョンに言われています。中野港には、刺し網と掬いと小型底引きと小型イカ釣りがいますが、小型底引きの一部15名が参加してくれています。最初は、全員に案内を出したのですが、ずいぶん白い目で見られました。それでも、その15名で魚の販売をしつつ、漁師交流もしています。

(委員)

難しいところもあるんですね。全員が一緒にやれば、道の駅のような形にも持っていけるような期待があるのですが。

(さかいみなと中野港漁村市実行委員会)

境漁港のようにどこかの水産会社の社長一人を口説けば良いというのではなく、個人事業主の集まりなので、怒られることもありますし、とても大変です。

(地域振興課長)

毎回、新しいことを企画されて、事業を拡大されている様子がよく分かりました。保育園の3園は4回の開催に、1園ずつ参加されるということですか。

(さかいみなと中野港漁村市実行委員会)

5月が上道保育園、6月が中浜保育園と聖心幼稚園です。一度に2園は大変ですが、市の子育て支援課や園の先生も付き添います。近くに商店のカニの水槽もありますので、それも見てもらえたらと思っています。

(地域振興課長)

段々と、市場だけでなく、教育現場の要素も出てきましたね。

(さかいみなと中野港漁村市実行委員会)

色んな要素があるので、新規性を求められても難しいところはあります。ですが、新しい

ことをするつもりがなくても、じわじわと新しいことがついてくるような状態です。園に関しては、僕も園の方に行く機会が増えて、6月はまぐる集会、明日は銀ざけ集会もあります。秋になればカニ集会があって、最後の集大成のフィッシュキッチンも僕が行くことになっていまして、大変です。

(地域振興課長)

初めは、売るだけだった活動が段々と広がって、色々な意図を持った活動になっていったということですね。

この市場について、規模の大きさはあるとは思いますが、回数を増やすということはいかがでしょうか。

(さかいみなと中野港漁村市実行委員会)

初年度に10回やったのですが、冬場は全然人が来ませんでした。だったらと考えたのが今の形です。冬場は300人くらいしか人が来ませんでした。余ったらどうするんだと文句も言われて、僕も結構買いました。

補足ですが、漁協を通さないとできません。ですので、漁協には手数料を払っています。ただ、メンバーの収集にしろ、雛形ができていますので、楽です。ラインで「出てもらえませんか」で出てもらってますから。

(委員)

もう市民活動推進補助金の枠ではないような気がします。

(さかいみなと中野港漁村市実行委員会)

できれば、水産商工課で予算をつけてもらえばありがたいです。

それから、プレゼンの時間が3分では短いので、5分にさせていただけたらと思います。

<プレゼンテーション終了>

(会長)

それでは審議に入りたいと思います。みなさんプレゼンをお聞きになりまして感じたことなどがあれば発言していただけたらと思います。(以下、非公開)

～審議～

それでは、申請団体に対して採択の通知をお願いします。そのほかに、事務局から何かありますか。

(事務局)

皆様のご指摘された点については、付帯意見として団体に通知したいと思えます。それから、申請書は回収させていただきますので、ご用意をお願いします。

(会長)

それでは以上で、市民活動推進補助金の審査を終了します。

<審査会終了>

(会長)

それでは、今期の取組テーマ「U・Iターンしたくなるまちづくり」について、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

お手元の資料に沿って、進めさせていただきます。

まず、資料1として、今年度のスケジュールをつけております。スケジュールの中の第2回が今回に当たりますが、前回お渡ししたスケジュールでは、この第2回と第3回の間で補助金審査なしの会議を設けておりました。そこで、何をするかということをお前回と今回で決めるという話でしたが、今回は、欠席者も多いですし、時間も時間ですので、決めるというところまではいかず、毎熊アドバイザーが出席の元、再度協議してはどうかと、順番を変えました。で、第4回と第5回で、ワールドカフェ等の何かができるかと考えております。

続いて資料2をご覧ください。こちらには、前回提示した事務局からの案と皆さまの意見を載せております。

前回は、何をするかにあたり、まずは最終的なゴールをどうするか、実践を行うのか、提言を行うのか、またそれにより年度中に何をやるかというところを決めるため協議をしていただきました。皆さまからの意見としては、実践をするべきという意見もありましたし、今回は実践が難しいので、次期で実践を行うということにして、そのための協議やワールドカフェといったことを重ねてマニュアルのようなものを作ってはどうか、という意見がありました。また、マニュアルとしながらも、提言を含んだ内容にすることもできるのではないかと意見もありました。

具体的な内容としては、出前ワールドカフェの開催や水木しげるロードで観光客からアンケート、県外に出ている大学生とのワールドカフェという意見がございました。以上が、前回出た意見をまとめたものですが、前回以降で、皆さまで思いつかれたことや、ご意見など伺えたらと思えます。事務局からは以上です。

(会長)

それでは、今の事務局の説明を聞かれて、こういうことができるのではないかと

ご意見などございましたら、ご発言をお願いします。

青年会議所がまちづくりに関するアンケートを取っていましたね。アンケートも誰を対象にするかというところもありますし、回収もどれだけ集められるかというところもあります。

(委員)

青年会議所のアンケートも項目が多くて、途中でやめたという人もいました。配る人がもう少しお願いしたら良いのかもしれませんが。

(委員)

自治会によって、配り方も違いますし、配ることもだめだという自治会もありました。

(会長)

当事者に集まってもらうのは難しいですかね。

(事務局)

移住された方であれば、地域振興課で移住定住も担当しておりますので、何人かは過去にお話した方もいらっしゃると思います。身近なところでいえば、市役所の中にも移住者はおられますし、地域おこし協力隊も1名います。委員の皆さんの周りにも思いつく方はいらっしゃるかと思います。ワークショップをすれば、10名いれば、皆さんと合わせて4、5班くらいできますので、1人1名呼んでいただくか、呼べなくとも、事務局で3、4名集めれば、御の字かと思えます。

(会長)

やはり、何かやってみないと「ああじゃないか、こうじゃないか」と言っても仕方ないですよ。

(地域振興課長)

やってみるとして、何をするのかという意見を今日はいただきたいところです。で、事務局案として、ワールドカフェをやるかどうか、あるいは、他市町村の中間支援組織の方を招いて、講演会を開催してはどうか、という提案です。それで、これはあくまで事務局の案ですので、これをするなら、こういう人たちを呼んだらどうかとか、これは違うのではないかという意見をもらえたらと思います。そこから、何かをして、最終的に報告書にするのか、提言書にするのか、ということも伺えたらということです。

(委員)

基本的なところを聞くのですが、最終的に、市長に意見書を出すというために我々で実践

して成果をあげるということですか。

(会長)

やはり、実際に話を聞いてみて、「こうするべき」としたら提言になるし、「こういう意見でした」となれば報告になります。

(委員)

今の時点で、色んな人に意見を聞かないと、実践の案の出しようがないですね。色んな人に話を聞いて、その結果をまとめて、提言というのが実現性としては高いのかなと思います。

(委員)

この前、ワールドカフェして色んな意見が聞けました。なので、それを積み重ねて、まとめるというのも一つだと思います。ただ、前回も報告しましたが、それがどのように生かされているのか分からないところもあったので、市報で特集を組んでもらうなどしたら良いのかなと思います。

(委員)

中山間地域では、移住者の組織があって、声をかけたら人が集まるような感じですが、境港では、どれくらい人は集まるものですか。

(事務局)

移住者に対して、呼びかけるということもこれまでありませんでした。中山間地域なんかでは、移住者を支援する組織もあれば、移住者自身が中心になって組織を作っているところもあります。

(委員)

境港市はそういう組織ないんですね。

(地域振興課長)

境港市はありません。ですので、移住者の方の情報を持っているとすれば市になります。移住者へのアンケートというのも市が実施しています。ただ、移住者の方がこれから来る移住者の方を支援するという動きはないので、事務局案であげているところです。

(委員)

理想としては、そういう組織があるべきですが、現状、できていないということですか。

(地域振興課長)

皆さんにとって、それが理想なのかどうかというところです。行政がそういう組織を作って、誰かを会長にあてがうというのが簡単だと思います。そうでないのが、市民活動であって、皆さんがそういう組織を必要だと思うのなら、たとえば、行政はこういう支援が必要だ、こういうお膳立てがあれば市民は活動がしやすいといった意見をいただければ、それが皆さんの成果でもあるし、補助金の審査だけでなく、まちづくりについても考えていただくというのが当初お願いしたい委員の役割です。その中で、今回は、「U・Iターンするまちづくり」をテーマにして、昨年は高校生と大学生に意見を聞きました。あとは、どういうネタを仕入れれば、その成果に結び付けられるかというところです。事務局としては、案は出しますが、事務局主導でこれをやりましようとしても、それは市民活動ではありませんので、意見を出してもらって、決めるところは皆さんで決めていただきたいと思います。それで、今日のところは、欠席の委員も多いですし、決めるところまではいきませんが、意見をいくつかあげてもらいと、それらをまとめて、またお示しできますので、お願いしたいところです。

(委員)

支援でなく、移住者同士のネットワークというのものないのですか。

(事務局)

ありません。

(委員)

境港市は水産関係の仕事でIターンというのが多くて、元々、先祖は長崎だ、四国だという土地柄ですので、別の地域よりは可能性があると思います。

(委員)

華僑にしてもそうですけど、どこかで事業をして、親戚がついてくるとかというのもネットワークですよ。

それから、色んなところがU・Iターンは進めていますけど、境港はどういう人たちをターゲットにU・Iターンを進めるのか。どの世代か、どの仕事を、という何かを決めて特色を出さないと、誰でもウェルカムでは差別化が図れないと思います。

(委員)

中山間地だと、農業とか林業とか大体決まっていますので、ターゲットも絞りやすいし、ネットワークも作りやすいのですが、境港だと範囲も広いので、どうやってターゲットを絞っていくのか、ネットワークを作っていくのかというのは難しいです。ですが、やっていかないといけないことは事実です。

(委員)

自分も子育て世代なので、感じるところはあるのですが、1軒屋の借家が不足しています。Iターンでこちらに来て、新築を建てるのは難しい。しかし、子どもがいるとアパートでは狭かったり、近所迷惑になったりする。ですので、本当は安くても古くても良いので、車が2台置けるような1軒屋の借家があれば良いのですが、境港はそれが不足しているので、呼びこめても住むところがない、そうすると、ほかに流れるということもあるかと思います。

(委員)

中山間地は空き家が増えていっているなので、買い取っても安いし、畑もついていたりする。

(委員)

呼び込むために借家として貸し出すとか、売るとかあると思うんですけど、境港は一人や二人でも1軒屋で住んでいて、空き家になっても貸さないという人も多い。

(委員)

空き地は結構ありますよね。古い家を解体した空き地はよく目にします。それに昔と比べて一坪あたりの金額は下がっています。

(委員)

結局、「借家」がほしいんですよね。

(地域振興課長)

市としては、夕日ヶ丘の定期借地権があり、アパート並の賃料で家が建ちますよというのはウリにしていますが、ある意味、委員が仰るように、ずっと住むのかどうか分からないという人にとっては、借家が良いということですよ。

(委員)

借家に住むことで、定住を希望するようにもなるかもしれません。いきなり家を建てるのはハードルが高いですから。

(委員)

「鬼太郎と住めるまち」という形で、何か付加価値をつけてみるというのはどうでしょうか。

(委員)

住むところと職がないとだめですよ。農業とかですと、自給自足できますけど。

(委員)

中野港漁村市を利用して、移住者を呼び込んでもらえたらとも思ったんだけど、難しそう
ですしね。

(委員)

結局、所帯主が働く人が少ないということでしょうか。

(委員)

世帯主が一家を養っていくのに、子どもが3人くらいいけば、年収は500万円を超えな
いと生活ができないというところなんですよね。子供を大学に入れるのに借入をするのに
もそれくらい要りますので、出て戻ってもらうのも難しくなってきます。

以前は、一流の大学に出ても、いずれ地元に戻ってきて、親の会社を継いで、会社を大き
くしたり、地域を盛り上げたりということがあったと思いますが、今は、戻ってきても収入
が低いので、帰ってこない、親のほうも子どもの自由にしたら良い、自分の代で畳んでも良
いという風潮もあると思います。

(委員)

知人に聞いた話ですが、ネギ農家で1千万の稼ぎがあっても、7割が人件費だとか必要経
費であるそうです。ですので、農地があっても飛びつく人は少ない。

(地域振興課長)

若手の就農者が多くて、農地がないという話もあります。

(委員)

結局、格差があるということなのかもしれませんね。

(委員)

たとえば、立場の違う各産業の色んな人に話を聞くというのも良いかもしれません。

(委員)

U・Iターンは口コミだと思いますので、口コミを起こすネットワークという場が必要か
と思います。

(会長)

では、U・Iターンをしてこられて、困っていることだとかを聞いてみて、そこから提言
につなげていくような感じでしょうか。

(委員)

うちの後ろに保安部の宿舎があつて、40戸近くあつたのですが、耐震に引がかかつて解体されたのですが、私が知っている保安部の方は定年退職したら、境港に住みたいと言っている方もいて、夕日ヶ丘に家を建てた方もおられます。せつかく、境港には自衛隊も保安部もあるのだから、そういう方々が境港に住んでもらうために、どうやったら境港に住んでもらえるかという話を聞いてみるのはどうでしょうか。

(委員)

自分の近くにも、自衛隊の方が家を建てていますが、皆さん言われるのが、境港は自然もあつて、魚が食べれるし、足を延ばせば、大山があつて登山もできるしスキーもできる。運動される方にとっては、特に良いところなんですよ。

(委員)

外から来た人はそういうことを言ってくれますよね。

(会長)

やはり話を聞かないといけませんよね。

(委員)

話は聞かないといけないし、できれば、ネットワークを作つて、その方たちから色々な情報を発信してもらえたら、共感と興味を持ってくれる人が増えると思います。せつかく、色々な人たちが移住してきているのに、バラバラでは力が入らないと思います。外から来た人たちが出す境港の情報が一番強い情報だと思いますので、どうやったら、ネットワークができるのか探っていかなければいけないと思います。

(会長)

では、どういう方々に話を聞くのが良いのでしょうか。

(委員)

実際、移住される方というのはどういう方々なのでしょう。

(事務局)

やはり、自衛隊の方々かと思います。

(委員)

若手農業者の方もけっこういますよね。

(事務局)

農政課の方に確認すれば、出してくれるかと思います。

(委員)

移住の方々は、水産業の方とか、ロコミで成功事例が広がり、来ていて、結果的にその地域の特色になっていったのだと思います。

(会長)

自衛隊の方とか、〇〇関係の方とかの話聞く。

(委員)

ずっと昔に入ってきた人ではなく、最近入ってこられた人たちからの情報が必要だと思います。何年も前に入ってきて定着している人の意見はもう響かなくなっている可能性もあるので、最近入られた方に、ネットワークを作ってもらって、情報発信してもらうように、もっていかないといけないと思います。若手農業者の会もできていますからね。

(事務局)

そういう属性の方々を少しずつ出してもらってワークショップするというのは良いかもしれませぬ。

(委員)

ネットワークを作るにはどうしたら良いかという意見も出るかもしれません。

(事務局)

事務局案に出していますが、1回目にワークショップをして、2回目に他市などでネットワークを立ち上げた人を呼んで、ワークショップに来た人にも参加してもらって、話を聞いてもらうというのもアリかと思います。

(委員)

どうやってネットワークができたのかということも参考にしたいですね。自然発生的に起きるとも思えませぬので。

(地域振興課長)

もう一つやり方としては、共通のアンケート用紙を作成して、委員の皆様の身近なUターン・Iターンの方に聞き取りをして集めてもらって分析をするというのであれば、人を呼ばなくてもできる方法です。1か月で5枚集めれば、50枚になりますので、「なぜ境港を選

んだのですか」など項目を固めてしまえば、色んな属性の方から意見を聞けて、すぐにできるやり方です。

(委員)

なるほど、それも良いかもしれませんね。

(委員)

支援団体やネットワークを作った人に話を聞いて、良いところがあれば境港に取り入れるというのはストレートで良いと思います。提案ですが、境港は自衛隊の方のIターンが多いので、他地域の自衛隊のある地区の団体の方の話を聞けたら良いと思います。山口県岩国市ですとか、広島県海田町ですとか、そういうところに団体があるのか、あればどういう動きをしているのか。以前、もらった資料で県内の色んな団体のことが書いてありますが、境港にはそぐわないかなと感じますので、境港に似た町の話を知りたいと思います。

(委員)

水産も右肩上がりというわけではありませんので、やはり自衛隊ですよ。境港の中でも高所得者層ですよ。ここを選んでもらって、異動があっても単身赴任するような形になってもらえたら良いですよ、家を建てて。

(委員)

そういった支援団体があればと思います。

(委員)

インターネットで境港への興味を聞いてみるというのはいかがでしょう。

(事務局)

意見をもらえたら、大変参考になります。どうすれば、意見がほしい人たちに情報を届けられるかというのが課題になります。市のホームページに載せるというような形ではできるかと思いますが、どう市のホームページに誘導するのか。

(地域振興課長)

J Cのアンケート結果が来年でしたか。

(委員)

そうです。

まあ、やはり、ある程度カラーを出さないと移住は呼び込めないですよ。

(会長)

自衛隊・海保、そういうキーワードが出ました。
もう22時になりましたので、そろそろ。

(委員)

バラバラな意見ばかりでまとめるのが難しいですね。

(事務局)

皆さん、ご意見ありがとうございました。最初にこのテーマを決まる際にも、バラバラのキーワードが出て、どうなるかなと思いつつ、毎熊アドバイザーに来てもらい、キーワードをつないでいったら、一つ「移住」というテーマに結び付けることができました。

今日もらった意見、前回もらった意見をもとに、毎熊アドバイザーとも相談しながら、次回の方向を決めていきたいと思います。また、今回は欠席者も多いので、欠席された方にも議事録を送って、意見ももらいたいと思います。

(会長)

それでは、以上をもちまして、第2回のみんなでまちづくり推進会議を終了します。委員の皆様、長時間にわたってご協議いただき、ありがとうございました。